

本体表示機 SONO-DIS

▲ 上ボタン

- ・前のメニューに移る
- ・設定へ

▼ 下ボタン

- ・次のメニューに移る
- ・設定へ
- ・保存値の消去



C 測定&実行

- ・電源 ON/OFF→1 秒間長押し
- ・測定開始
- ・メニュー選択
- ・設定を保存

設定

- ・設定完了→1 秒間長押し
- ・メニューから離脱

※結果数値のコンマは小数点

ステップ1 配合を入力



電源を起動させると下記メニューが表示されます。

- ▲▼ 上下ボタンで設定したい項目を選び、C “CHOOSE” を押します。
- ▲▼ 上下ボタンで値を変更し、C 決定ボタンを押します。
- 📁 “END” で元の画面に戻り、C “NEXT” で測定画面に移ります。

1 Density:

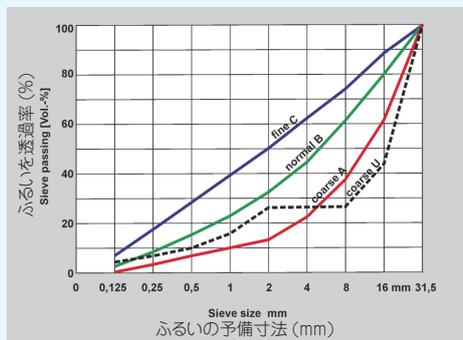
密度を入力…コンクリート配合表（示方配合の設計より計算）より入力します。※kg/dm³=1000kg/m³

2 CHAR:

粗骨材の最大寸法（細骨材率）、生コン配合に合わせて**4タイプから選択**します。

配合条件が異なると測定に影響が出ますので、下記表より近い条件のものを選定してください。

粒度曲線



fine C (プラス補正)

水分量を高めに補正した結果を表示

細骨材率が多い生コン

細骨材(砂)の含有量40%以上、粒径が最大8mmを含むセメント比率の高いコンクリート

フライアッシュ、PCE、AE材料、混和剤などが含まれるコンクリート

coarse A (マイナス補正)

水分量を少なめに補正した結果を表示

粗骨材率が多い生コン・流動性コンクリート

骨材の含有量90%以上、粒径が32mm以上、残りの粒径32mm以下を含むコンクリート

Bに当てはまるが、160L/m³未満の水分設定値のコンクリートに、流動化剤を多く含むコンクリート

normal B

調整なし

標準の生コン

一部粗骨材(砂利)を含むが、大半の骨材粒径が最大18mmのコンクリート

フライアッシュ、PCE、AE材料、混和剤などが含まれるコンクリート

special(coarseU) (マイナス補正)

水分量を少なめに補正した結果を表示

ギャップアスファルト混合物

…粒度が不連続なもの

4-8mm小さな砂利がほとんどない、空隙量が5%以上の場合

フライアッシュ、PCE、AE材料、混和剤などが含まれるコンクリート

3 G-Set +/-: ※L/m³ = kg/m³

骨材水分補正機能です。(補正しない場合は通常 0 L/m³)

骨材吸水量を除く場合はマイナス値、骨材吸収量を含む場合はプラス値を入力します。

※測定値にそのままの値が反映されます

メモ 骨材吸水量を除くため、骨材含水量の2/3をマイナスします。(骨材含水量15Lの場合は2/3の約10L/m³を入力) 生コン内のすべての水分を測定したい(骨材有効吸水量を含む)場合は、骨材含水量の1/3をプラスします。

ステップ 2 測定

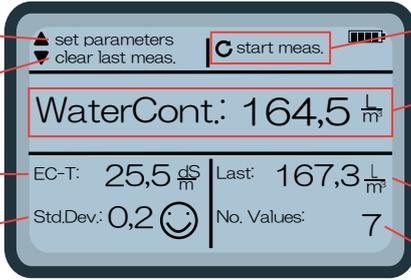
パラメータ設定
(ステップ1の配合入力画面に戻ります)

最後の測定値を消去、
長押しですべての測定値を消去

導電率

標準偏差

StdDev>0.5の場合、もっと多くの測定が必要です。
測定回数を重ねるほど、測定精度が上がります。



測定開始

単位水量
 $\frac{L}{m^3} = \text{kg}/m^3$

最後の測定値 ※削除可能

測定回数

※コンマは小数点

- 1 プラスチック製バケツ(推奨10~12L)最小5L、高さ最低210mm以上の生コンを入れます。
生コンは既に練り混ぜたものを測定してください。
※本製品は電磁波を使用し測定しています。
金属製のバケツ、容量の12Lを超える大きいバケツ等は測定に影響が出てしまう為使用しないでください。
- 2 プローブをバケツの端から少し角度をつけて挿入します。(図1)
- 3 プローブの表面に空気が入らないよう、バケツの外側を数回叩いて(足などで)空気を抜きます。(図2)
- 4 **C** “start meas” を押し、測定開始します。
測定回数が多いほど、測定精度が高くなります。(通常5回程度)
- 5 測定毎に生コンからプローブを取り出してください。
バケツの端に沿って、異なる場所でプローブを挿入します(図1)
※測定回数を重ねるほど、測定精度が高くなります。
<オススメ>一連の測定を開始する前に、何回かテスト測定を行い、テスト測定値を削除してください。
※バケツの同じ場所を2度測定しないでください。
※測定値が平均値から大きく異なる場合は、その値は削除してください。
- 5 測定毎に生コンからプローブを取り出してください。
バケツの端に沿って、異なる場所でプローブを挿入します(図1)



図1

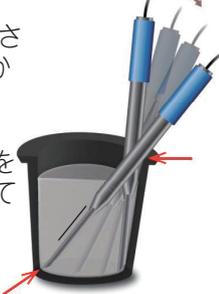


図2

流動性が高い生コンの場合



プローブに付属のプラスチック製シャベル(左図)を装着してください。プローブを挿入したときに大きな砂利が、測定中にセンサーから流れ動かないようにします。



挿入して測定する時、右図のように、プローブ(黒いセンサー部)を上面にして、ゆっくり対角線に向けてプローブの先端を押し当てます。

注意点

※本製品はドイツ製です。表示機の数値にはコンマが使用されていますが、小数点の意味になります。予めご了承ください。

レディミクストコンクリート配合計画書 _ サンプル

配 合 の 設 計 条 件					
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼 び 強 度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	33	18	20	N
指定事項	セメントの種類			空 気 量	- %
	骨 材 の 種 類			軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m ³
	粗 骨 材 の 最 大 寸 法			コンクリートの温度	- °C
	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	A	-	水セメント比の目標値の上限	50 %
	骨材のアルカリシリカ反応性による区分			単位水量の目標値の上限	- kg/m ³
	水 の 区 分			単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m ³
	混和材料の種類及び使用量			流動化後のスランプ増大量	- cm
	塩化物含有量		- kg/m ³ 以下		
呼び強度を保證する材齢		- 日			

使 用 材 料														
セメント	混 和 材		水	細 骨 材			粗 骨 材				混 和 剤			
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③	
348	-	-	172	655	217	-	917	-	-	-	3.480	-	-	← 合計
水セメント比			49.5%	水結合材比			-				細骨材率		49.2%	← CHAR
							骨材混合比 (容積混合)		骨材①:②		75.0:25.0			